

のぞくと消えるバグ、ハイゼンバグ (Heisenbug)

記事のURL

<https://www.gklibrarykor.com/ja/article/10568/>

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

プログラムでときどき妙なエラーが出るという報告を受け、原因を探そうとデバグガを起動すると、うそのようにエラーが消えてしまうことがあります。確認用の出力を1行入れただけで問題が止まり、その行を消すとまた現れることもあります。開発者たちは、こうしてのぞき込んだ瞬間に隠れてしまうバグに、物理学者の名前を借りたあだ名を付けました。それが「ハイゼンバグ (Heisenbug)」です。ハイゼンバグとは、簡単に言えば、原因を調べようとする消えたり振る舞いが変わったりするソフトウェアのバグを意味します。観察する行為そのものが対象の状態を変えるという観察者効果になぞらえた言葉で、再現や追跡が特に難しいバグを指すときに使います。本記事では、ハイゼンバグという名前の由来から、バグが隠れる理由、一緒に使われるバグの呼び名、そしてハイゼンバグを捕まえる方法まで、順に見ていきます。見ようとする隠れるバグ、ハイゼンバグ ハイゼンバグという名前の由来 このあだ名は、物理学の有名な原理とプログラマーたちの冗談が出会って生まれました。(1) 物理学者の名前を借りた言葉遊びハイゼンバグは、不確定性原理を提唱したドイツの物理学者ヴェルナー・ハイゼンベルク (Werner Heisenberg) の名前に、虫を意味するバグ (bug) を重ねた言葉遊びです。観察しようとした瞬間に対象が変わってしまうという観察者効果を連想